

タアサイ (アスラナ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
		タネまき	収穫								

形で生育します。

栽培しやすく、プランター栽培もできます。

品種

葉の大きなものや、しわの多少など、いくらか違うものがありますが、特に品種として分化したものはありません。

緑彩1号、緑彩2号。

栽培ポイント

春まきと、秋まきができます。春まきは高温期に向かうので生育が速く、株が立性になります。秋まきは生育期間が低温期に向かうので、株がよくしまり、地面にはうように横に広がります。どちらかという秋まきのほうが栽培に適しています。

畑には畝を作る1週間前に、1㎡あたり2握りの石灰をまいて、土を耕しておきます。

元肥えを畝の底に施してタネをまきます。本葉1枚のころから間引き、本葉5～6枚のときに最終株間にします。

秋まきは最終株間を広くとります。追肥、中耕、土寄せを行い、乾くときは十分に水やりします。

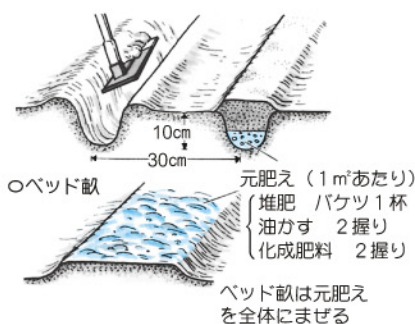
秋まきは、寒さに当ててから収穫すると、うまみが出ます。秋はとう立ちの心配がなく、長く畑におけるので、大きくなった株から収穫します。

栄養

ビタミンやミネラルを含みます。繊維はチンゲンサイよりもやわらかいので、加熱時間を短くします。

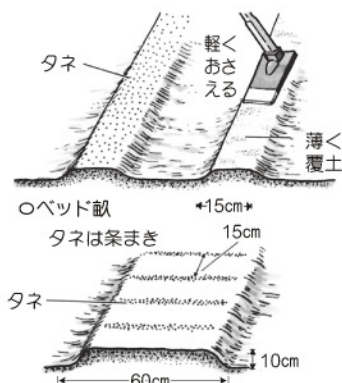
1 畝作り

苦土石灰をまいておいた畑の土をならして、タネまきの1週間前にくわ幅の畝溝を掘って、元肥えを施し、溝の土とまぜ、掘り上げた土を溝に戻して上をならす。広幅のベッド畝でもよい。



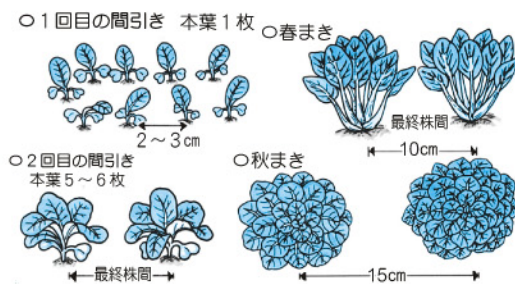
2 タネまき

埋め戻した畝の上を平らにならし、幅いっぱいにはタネをばらまきにする。ベッド畝の場合は、条まきがよい。薄く覆土して軽くおさえておく。



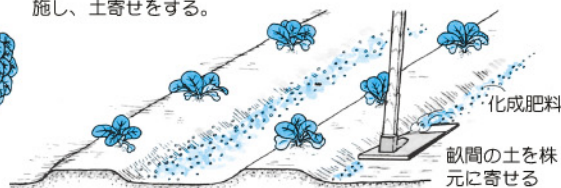
3 間引き

間引きは2～3回に分けて行うが、春まきでは立性になるので最終株間は10cmぐらい、秋まきでは株が横に広がるので15cmとする。



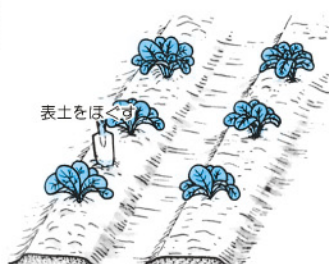
4 追肥・土寄せ

間引きのあとに、化成肥料を1㎡あたり1握り程度施し、土寄せをする。



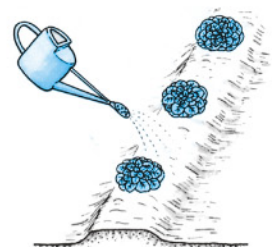
5 中耕

生育中に株間の土がかたくなるので、移植ゴテで表面を浅くつついて掘り起こし、土の中に空気を入れてやると、根が伸びて生育がよくなる。



6 水やり

ときどき水やりをすると、品質のよいものができる。



主な病害虫

◆害虫 アブラムシ